

概 要

1 調査の目的

この調査は、児童、生徒及び幼児(以下「児童等」という。)の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的としている。

2 調査事項

児童等の発育状態：身長、体重及び座高

児童等の健康状態：栄養状態、せき柱・胸郭の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患・皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、心臓の疾病・異常の有無、尿、寄生虫卵の有無、その他の疾病・異常の有無及び結核に関する検診の結果

3 調査の範囲

小学校、中学校、高等学校及び幼稚園のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校(以下「調査実施校」という。)

4 調査客体

(1) 小学校・中学校

調査実施校に指定された学校の児童・生徒の一部

(2) 高等学校

調査実施校に指定された学校の生徒の一部

ただし、次に掲げる生徒は調査対象者から除く

(ア) 全日制課程及び定時制課程に在籍する満18歳以上の生徒

(イ) 通信制課程の生徒

(3) 幼稚園

調査実施校に指定された幼稚園の5歳児の一部

5 調査の規模

| 区 分 | 学校 総数 | 調査実 施校数 | 児童等総数 (A) | 発育状態調査 対象者数 (B) | 抽出率 B/A(%) | 健康状態調査 対象者数 (C) | 抽出率 C/A(%) |
|-------|----------|------------|--------------|--------------------|---------------|--------------------|---------------|
| 幼 稚 園 | 509 | 41 | 65,937 | 1,557 | 2.4 | 3,180 | 4.8 |
| 小 学 校 | 781 | 63 | 287,422 | 6,011 | 2.1 | 33,897 | 11.8 |
| 中 学 校 | 380 | 43 | 145,687 | 4,959 | 3.4 | 22,020 | 15.1 |
| 高等学校 | 182 | 36 | 140,835 | 3,030 | 2.2 | 34,045 | 24.2 |

* 学校総数及び児童等総数は、平成18年度学校基本調査報告書(文部科学省)による。

6 調査の期日

平成18年4月1日から6月30日までの間に実施された学校保健法による健康診断の結果に基づき調査

〔利用上の注意〕

(1) 年齢は、平成18年4月1日現在の満年齢である。

(2) この結果数値は速報であるため、後日文部科学省から公表される確定数値と相違することがある。

1 発育状態調査結果

(1) 身長

① 前年度との比較

前年度との比較は表1のとおりである。

身長を前年度の同年齢と比較すると、男子では、最も増加しているのは、16歳の0.7cmで、最も減少しているのは、13歳の0.5cmである。

女子では、最も増加しているのは、11歳の0.8cm、最も減少しているのは、16歳の0.7cmである。

表1 男女・世代・年齢別 身長の状況

(単位:cm)

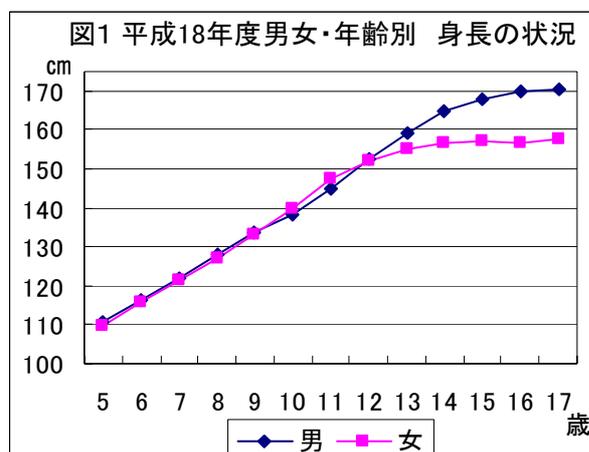
| 区分 | 男 子 | | | | 女 子 | | | | |
|--------|-------------|--------|-------------------|----------|-------------|--------|-------------------|----------|-----|
| | 平成18年度 A | 平成17年度 | 昭和51年度 B(親の世代) | 差 A-B | 平成18年度 A | 平成17年度 | 昭和51年度 B(親の世代) | 差 A-B | |
| 幼稚園 5歳 | 110.6 | 110.4 | 109.8 | 0.8 | 109.6 | 109.7 | 109.1 | 0.5 | |
| 小学校 | 6歳 | 116.4 | 116.6 | 114.8 | 1.6 | 115.6 | 115.1 | 114.7 | 0.9 |
| | 7歳 | 122.1 | 122.0 | 120.6 | 1.5 | 121.6 | 121.2 | 119.8 | 1.8 |
| | 8歳 | 127.9 | 127.7 | 126.0 | 1.9 | 127.2 | 127.2 | 125.4 | 1.8 |
| | 9歳 | 133.7 | 133.1 | 130.8 | 2.9 | 133.1 | 133.3 | 130.9 | 2.2 |
| | 10歳 | 138.3 | 138.5 | 136.6 | 1.7 | 139.8 | 139.9 | 137.3 | 2.5 |
| 中学校 | 11歳 | 144.7 | 145.0 | 141.8 | 2.9 | 147.3 | 146.5 | 144.1 | 3.2 |
| | 12歳 | 152.3 | 152.4 | 148.3 | 4.0 | 152.1 | 151.8 | 149.7 | 2.4 |
| | 13歳 | 159.0 | 159.5 | 155.4 | 3.6 | 155.1 | 155.1 | 153.1 | 2.0 |
| 高等学校 | 14歳 | 164.9 | 164.9 | 161.9 | 3.0 | 156.5 | 156.6 | 155.2 | 1.3 |
| | 15歳 | 168.0 | 167.7 | 166.0 | 2.0 | 157.1 | 156.8 | 155.6 | 1.5 |
| | 16歳 | 169.7 | 169.0 | 167.9 | 1.8 | 156.8 | 157.5 | 156.0 | 0.8 |
| | 17歳 | 170.2 | 169.9 | 168.7 | 1.5 | 157.7 | 157.1 | 156.1 | 1.6 |

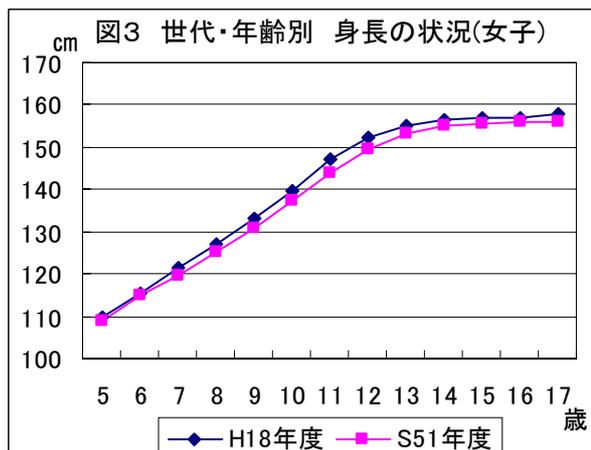
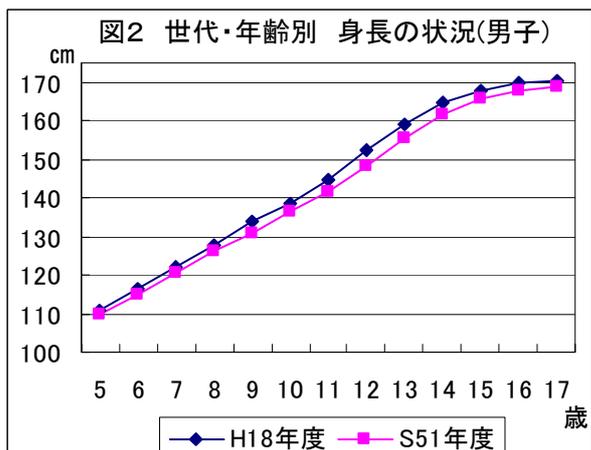
② 男女の比較

年齢別に男女を比較すると、表1・図1のように10歳及び11歳では女子の身長が男子をやや上回っている。また、12歳まではほとんど男女差はないが、13歳以降は男子が女子を大きく上回るようになり、差が最大となる16歳では男子の方が12.9cm高くなっている。

〈親の世代との比較〉

親の世代(30年前の昭和51年度の数值。以下同じ。)と比べると、表1・図2・図3のように、男女ともすべての年齢区分で親の世代を上回っている。男子では12歳で4.0cmと差が最大となり、15歳で親の世代の16歳にほぼ相当し、16歳では親の世代の17歳を上回っている。女子では11歳で3.2cmと差が最大となり、14歳で親の世代の17歳の身長よりも高くなっている。





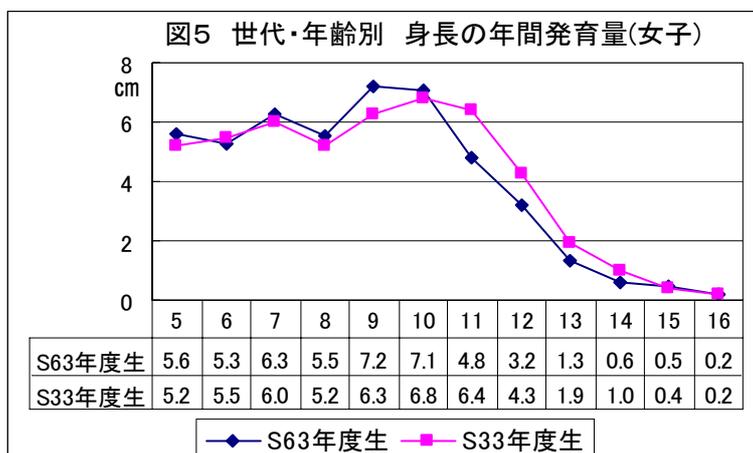
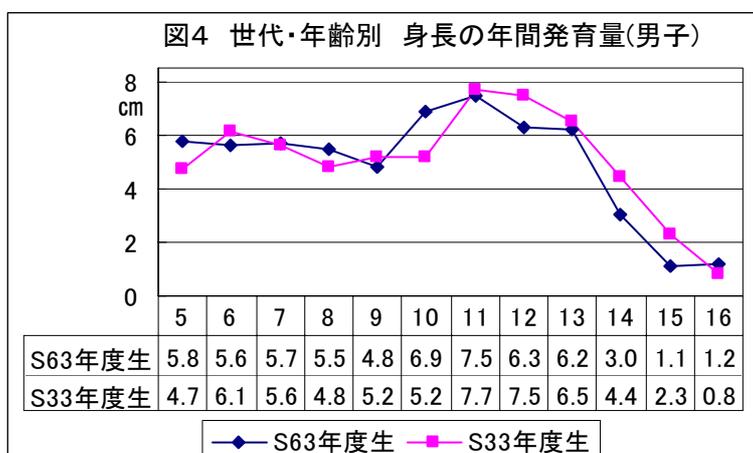
③ 年間発育量¹

17歳(昭和63年度生まれ)の年間発育量が最大となる時期は、男子では図4のように、11歳時で7.5cmで、女子では図5のように、9歳時で7.2cmである。

〈親の世代との比較〉

親の世代(昭和33年度生まれ)と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は、親の世代と同じ11歳時となっており、5歳、7歳、8歳、10歳及び16歳時で親の世代を上回っている。

女子では発育量が最大となる時期は親の世代よりも1歳早い9歳時となっており、5歳、7歳から10歳及び15歳時で親の世代を上回っている。



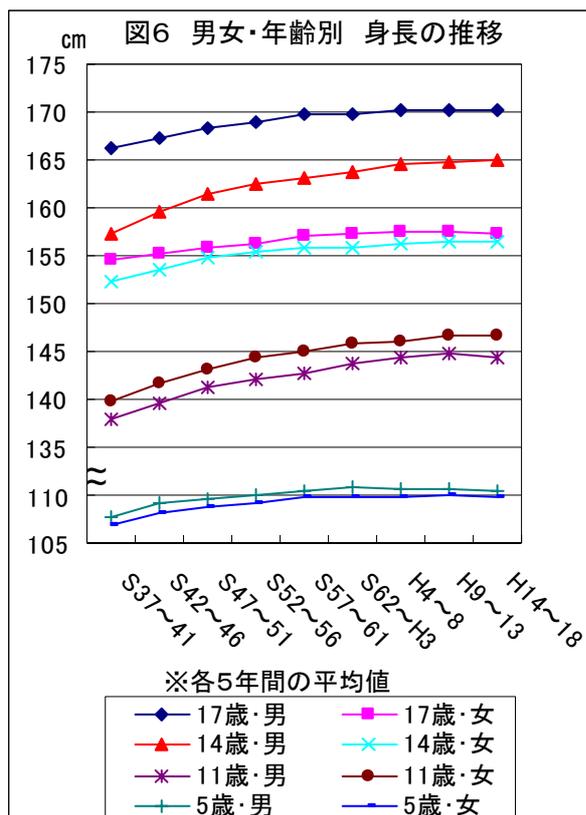
¹ 年間発育量とは、例えば、身長では、昭和63年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成7年度調査6歳の者の身長から平成6年度調査5歳の者の身長を引いたものである。以下、体重において同じ。

④ 過去45年間の推移

身長推移を、5歳(幼稚園)、11歳(小学校)、14歳(中学校)、17歳(高等学校)の4つの年齢について男女別にみると、図6のとおりである。
(注:5年間の平均値を使用。)

全体の傾向をみると、昭和57～61年度を境にして、伸びの傾斜が緩やかになっている。

最近の動きに注視すると、11歳女子及び14歳男子を除き、各年齢で前年度区分を下回っている。



(2) 体重

① 前年度との比較

前年度との比較は表2のとおりである。

体重を前年度の同年齢と比較すると、男子では、最も増加しているのは、9歳の0.7kgで、最も減少しているのは12歳及び13歳の0.5kgである。

女子では、最も増加しているのは、11歳の0.9kgで、最も減少しているのは、9歳の1.0kgである。

表2 男女・世代・年齢別 体重の状況

(単位:kg)

| 区分 | 男 | | | | 女 | | | | |
|------|-------------|--------|-------------------|----------|-------------|--------|-------------------|----------|-----|
| | 平成18年度 A | 平成17年度 | 昭和51年度 B(親の世代) | 差 A-B | 平成18年度 A | 平成17年度 | 昭和51年度 B(親の世代) | 差 A-B | |
| 幼稚園 | 5歳 | 18.9 | 19.1 | 18.5 | 0.4 | 18.5 | 18.8 | 18.2 | 0.3 |
| 小学校 | 6歳 | 21.5 | 21.6 | 20.3 | 1.2 | 20.7 | 20.8 | 20.0 | 0.7 |
| | 7歳 | 23.8 | 23.7 | 22.7 | 1.1 | 23.5 | 23.7 | 22.1 | 1.4 |
| | 8歳 | 27.2 | 27.2 | 25.3 | 1.9 | 26.5 | 26.7 | 24.8 | 1.7 |
| | 9歳 | 30.8 | 30.1 | 27.9 | 2.9 | 29.6 | 30.6 | 28.0 | 1.6 |
| | 10歳 | 34.3 | 33.9 | 31.4 | 2.9 | 33.8 | 34.1 | 31.9 | 1.9 |
| 中学校 | 11歳 | 38.4 | 38.7 | 34.8 | 3.6 | 40.1 | 39.2 | 36.5 | 3.6 |
| | 12歳 | 44.3 | 44.8 | 39.5 | 4.8 | 44.1 | 44.5 | 41.4 | 2.7 |
| | 13歳 | 48.9 | 49.4 | 44.9 | 4.0 | 47.3 | 47.8 | 45.1 | 2.2 |
| 高等学校 | 14歳 | 54.6 | 54.5 | 50.6 | 4.0 | 50.4 | 49.9 | 48.3 | 2.1 |
| | 15歳 | 59.9 | 59.5 | 55.1 | 4.8 | 52.3 | 52.2 | 49.7 | 2.6 |
| | 16歳 | 60.9 | 60.6 | 57.3 | 3.6 | 53.2 | 53.7 | 50.7 | 2.5 |
| | 17歳 | 63.0 | 63.2 | 58.5 | 4.5 | 53.6 | 53.0 | 51.2 | 2.4 |

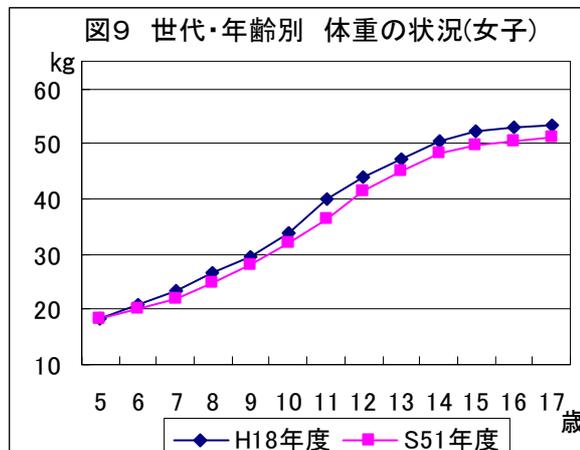
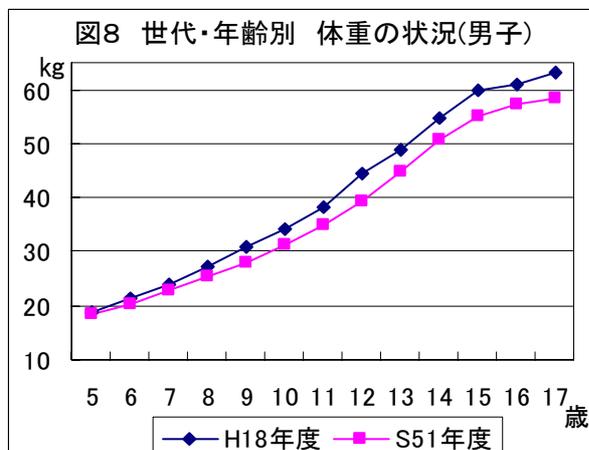
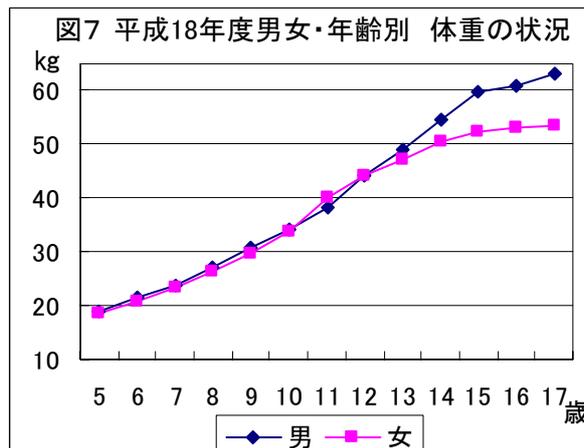
② 男女の比較

年齢別に男女を比較すると、表2・図7のように、11歳で女子の体重が男子をやや上回っている。また、13歳まではほとんど男女差はないが、14歳以降は男子が女子を大きく上回るようになり、差が最大となる17歳では男子の方が9.4kg重くなっている。

〈親の世代との比較〉

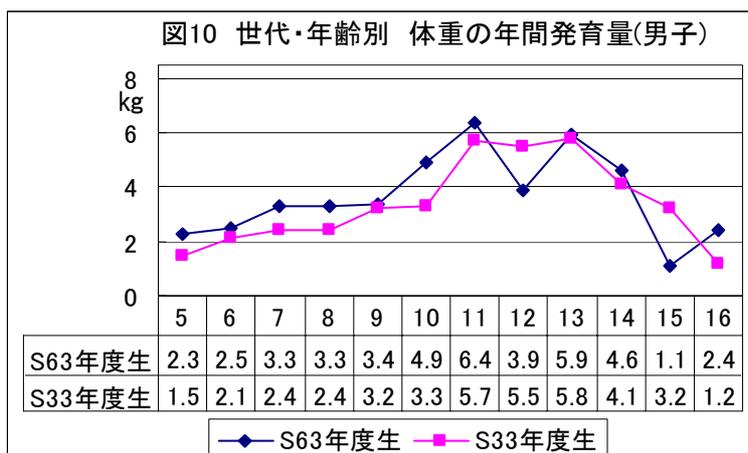
親の世代と比べると、表2・図8・図9のように、身長の場合と同様に、男女ともすべての年齢区分で親の世代を上回っている。

男子では12歳及び15歳で4.8kgと差が最大となり、15歳では、親の世代の17歳の体重を上回っている。女子では11歳で3.6kgと差が最大となり、男子と同様に、15歳では親の世代の17歳を上回っている。



③ 年間発育量

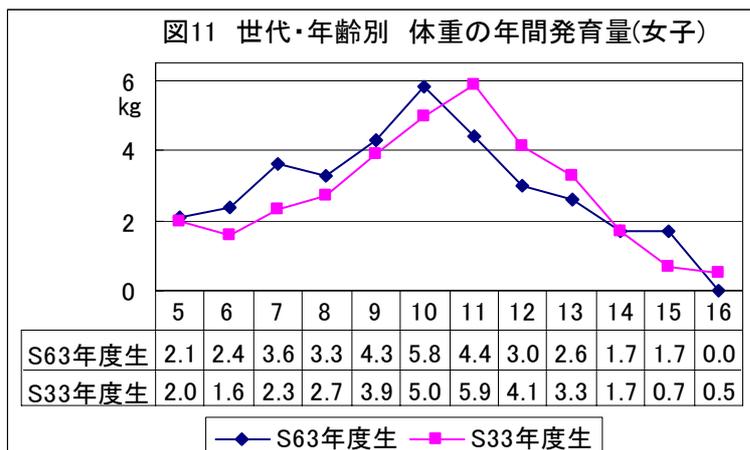
17歳(昭和63年度生まれ)の年間発育量が最大となる時期は、男子では図10のように、11歳時で6.4kgで、女子では図11のように、10歳時で5.8kgである。



〈親の世代との比較〉

親の世代と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は、親の世代より2歳早い11歳時となっており、5歳から11歳、13歳、14歳及び16歳時では親の世代を上回っている。

女子では発育量が最大となる時期は、親の世代より1歳早い10歳時で、5歳から10歳、15歳時で親の世代を上回っている。

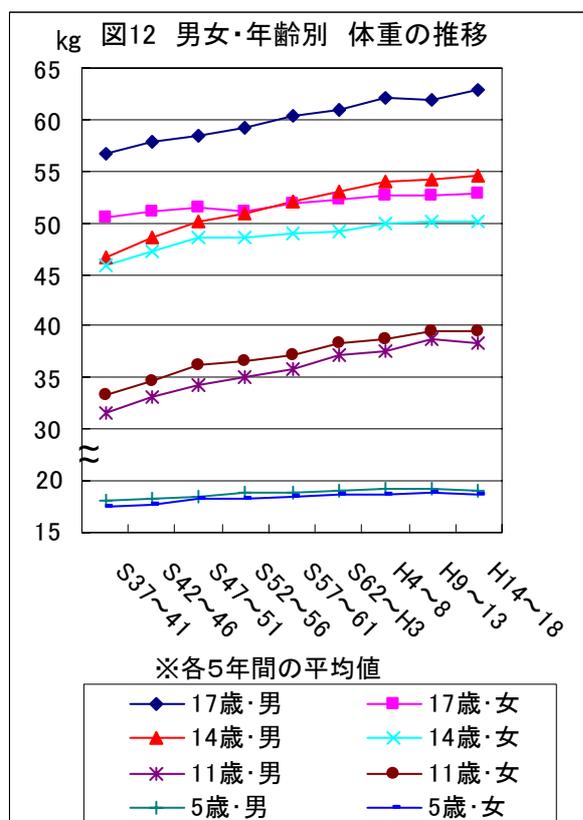


④ 過去45年間の推移

体重の推移を、5歳(幼稚園)、11歳(小学校)、14歳(中学校)、17歳(高等学校)の4つの年齢について男女別にみると、図12のとおりである。

(注:5年間の平均値を使用。)

全体的な傾向をみると、身長の場合とは異なり、体重では5歳の男女がほぼ横ばい状態であるが、他の区分では、平成14～18年度では、14歳男子及び17歳男女で、9～13年度に比べ、増加傾向にある。



(3) 座高

① 前年度との比較

前年度との比較は表3のとおりである。

座高を前年度の同年齢と比較すると、男子では、最も増加しているのは16歳の0.7cmで、最も減少しているのは、12歳の0.3cmである。

女子では、最も増加しているのは6歳の0.5cmで、最も減少しているのは、9歳の0.4cmである。

表3 男女・世代・年齢別 座高の状況

(単位:cm)

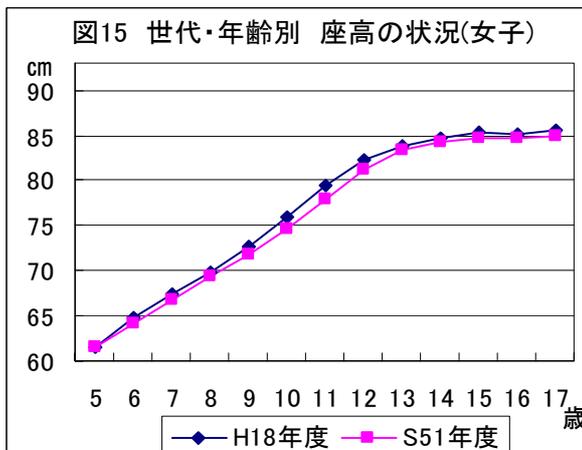
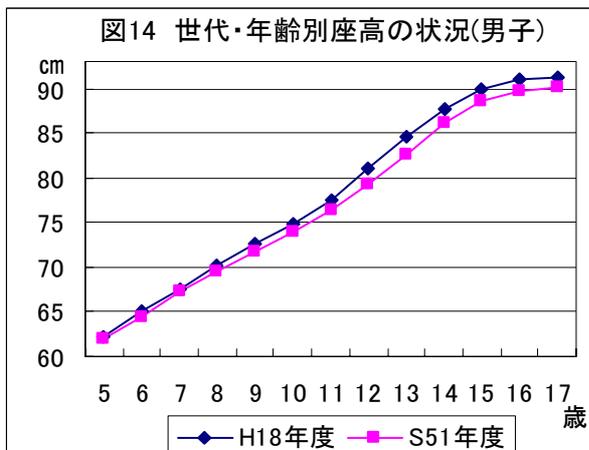
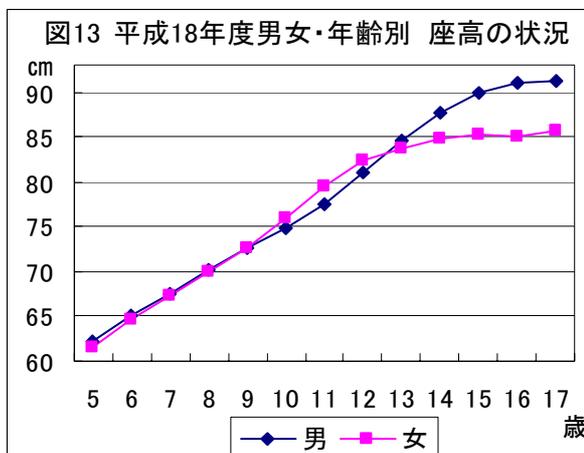
| 区分 | 年齢 | 男 子 | | | | 女 子 | | | |
|------|-----|-------------|--------|-------------------|----------|-------------|--------|-------------------|----------|
| | | 平成18年度 A | 平成17年度 | 昭和51年度 B(親の世代) | 差 A-B | 平成18年度 A | 平成17年度 | 昭和51年度 B(親の世代) | 差 A-B |
| 幼稚園 | 5歳 | 62.2 | 62.0 | 62.1 | 0.1 | 61.6 | 61.5 | 61.5 | 0.1 |
| 小学校 | 6歳 | 65.1 | 64.9 | 64.5 | 0.6 | 64.7 | 64.2 | 64.1 | 0.6 |
| | 7歳 | 67.6 | 67.4 | 67.2 | 0.4 | 67.4 | 67.2 | 66.7 | 0.7 |
| | 8歳 | 70.1 | 70.2 | 69.6 | 0.5 | 69.9 | 70.1 | 69.3 | 0.6 |
| | 9歳 | 72.7 | 72.4 | 71.7 | 1.0 | 72.6 | 73.0 | 71.7 | 0.9 |
| | 10歳 | 74.9 | 74.9 | 74.0 | 0.9 | 75.9 | 75.9 | 74.7 | 1.2 |
| 中学校 | 11歳 | 77.6 | 77.8 | 76.3 | 1.3 | 79.5 | 79.4 | 78.0 | 1.5 |
| | 12歳 | 81.1 | 81.4 | 79.2 | 1.9 | 82.3 | 82.0 | 81.2 | 1.1 |
| | 13歳 | 84.5 | 84.6 | 82.7 | 1.8 | 83.8 | 83.5 | 83.3 | 0.5 |
| 高等学校 | 14歳 | 87.6 | 87.8 | 86.1 | 1.5 | 84.7 | 84.6 | 84.3 | 0.4 |
| | 15歳 | 89.9 | 89.5 | 88.6 | 1.3 | 85.3 | 84.9 | 84.8 | 0.5 |
| | 16歳 | 90.9 | 90.2 | 89.6 | 1.3 | 85.1 | 85.3 | 84.8 | 0.3 |
| | 17歳 | 91.2 | 90.8 | 90.1 | 1.1 | 85.6 | 85.2 | 84.9 | 0.7 |

② 男女の比較

年齢別に男女を比較すると、表3・図13のように、10歳から12歳では女子の座高が男子をやや上回っている。また、13歳まではほとんど男女差はないが、14歳以降は男子が女子を大きく上回るようになり、差が最大となる16歳では男子の方が5.8cm高くなっている。

〈親の世代との比較〉

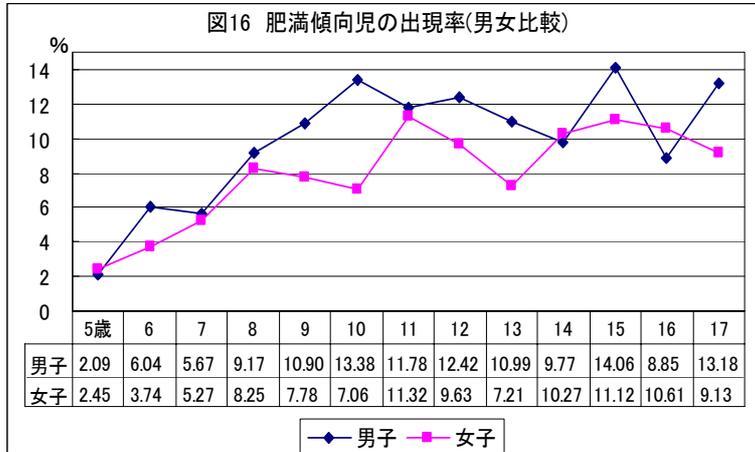
親の世代と比べると、表3・図14・図15のように、身長、体重の場合と同様に、男女ともすべての年齢区分で親の世代を上回っている。男子では12歳で1.9cmと差が最大となり、15歳で親の世代の16歳にほぼ相当し、16歳では親の世代の17歳を上回っている。女子では11歳で1.5cmと差が最大となり、15歳では、親の世代の17歳を上回っている。



(4) 肥満傾向児の状況

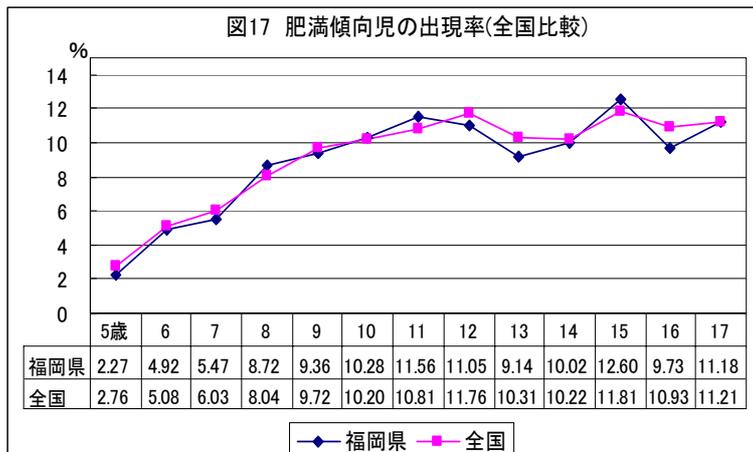
① 男女の比較

肥満傾向児の出現率を男女別にみると、図16のように、5歳、14歳及び16歳を除く年齢で女子よりも男子の方が上回っている。



② 全国との比較

肥満傾向児の出現率を全国と比較したところ、図17のように、8歳、10歳、11歳及び15歳を除く年齢で全国を下回っている。



注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

2 健康状態調査結果

1 疾病・異常等の状況(表4)

児童等の主な疾病・異常等の被患率をみると、「むし歯(う歯)」の者の割合が高く、小学校で69.74%、高等学校で71.60%となっている。

表4 主な疾病・異常等の被患率(平成18年度)

(単位:%)

| 区分 | 裸眼視力 1.0未満の者 | 眼の 疾病・ 異常 | 耳 疾 患 | 鼻・ 副 鼻腔 疾患 | むし歯(う歯) | | | ア ト ピ ー 性 皮 膚 炎 | 心 電 図 異 常 | 蛋 白 検 出 の 者 | ぜ ん 息 |
|------|-----------------|-----------------|-------------|---------------------|---------|-----------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------|----------------------------|-------------|
| | | | | | 計 | 処 置 完 了 者 | 未 処 置 歯 の あ る 者 | | | | |
| 幼稚園 | X | 2.63 | 7.96 | 3.30 | 52.47 | 22.57 | 29.90 | 3.17 | … | 1.64 | 1.68 |
| 小学校 | 31.44 | 5.55 | 7.20 | 14.54 | 69.74 | 33.85 | 35.89 | 2.56 | 2.18 | 0.78 | 2.51 |
| 中学校 | 55.59 | 5.94 | 2.61 | 19.18 | 59.04 | 26.86 | 32.18 | 2.02 | 3.52 | 3.15 | 2.87 |
| 高等学校 | X | 2.95 | 2.17 | 10.65 | 71.60 | 36.73 | 34.87 | 1.52 | 4.07 | 3.16 | 1.23 |

注1)心電図異常については、6歳、12歳及び15歳のみ実施している。

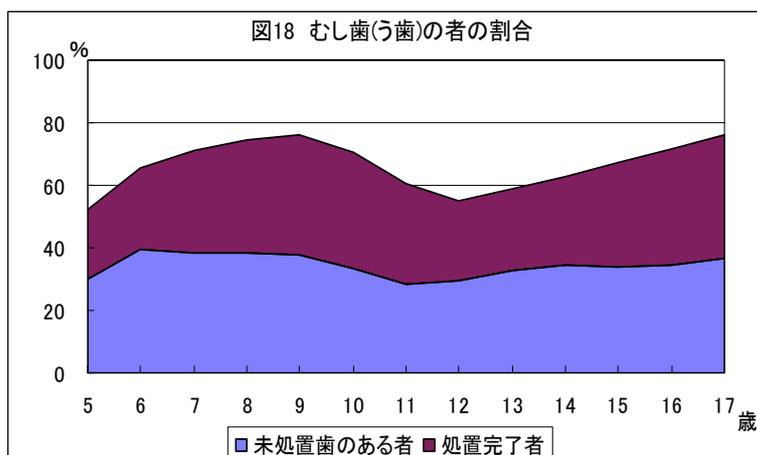
2)「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。以下同じ。

2 主な疾病・異常等

(1)むし歯(う歯)

むし歯の者の割合を年齢別にみると、図18のように、5歳から9歳まで及び12歳から17歳までは、年齢が高くなるにつれて割合が上昇しているが、9歳から12歳までは、年齢が高くなるにつれて割合が低下している。

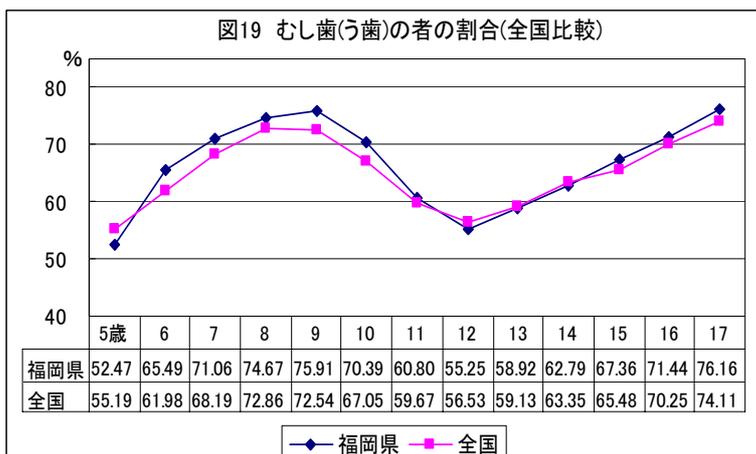
また、未処置歯のある者の割合は、全年齢で約3分の1となっている。



〈全国との比較〉

むし歯の者の割合を全国と比較してみると、図19のように、6歳から11歳及び15歳から17歳で全国を上回っている。

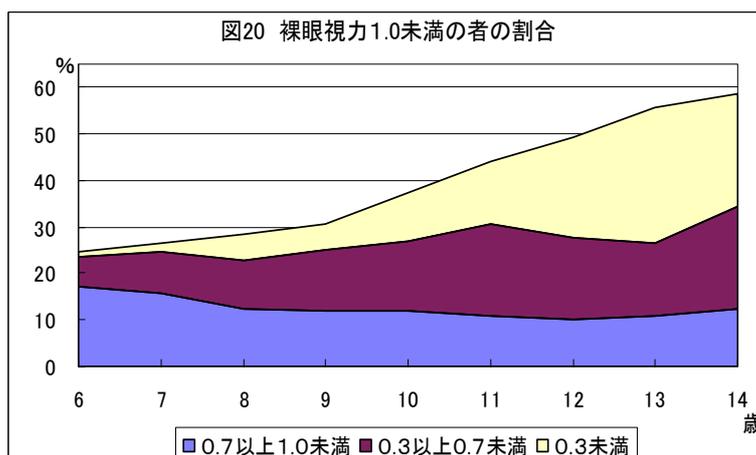
また、未処置歯のある者の割合を全国と比較してみると、図19のように、5歳、7歳及び8歳を除く年齢では全国を上回っている。



(2) 裸眼視力1.0未満

裸眼視力1.0未満の者の割合は、図20のように、年齢が高くなるにつれて上昇し、14歳では58.77%となっている。

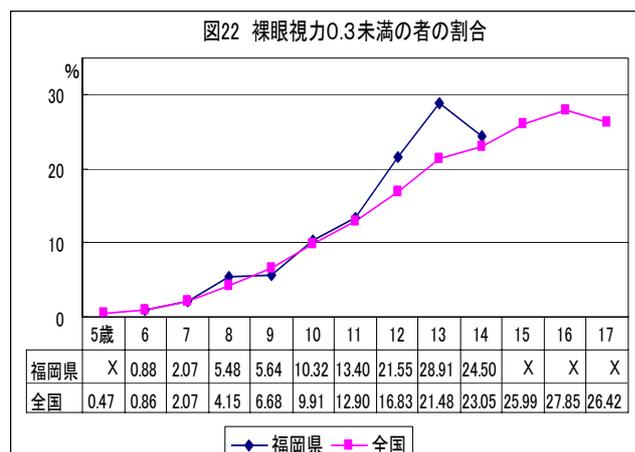
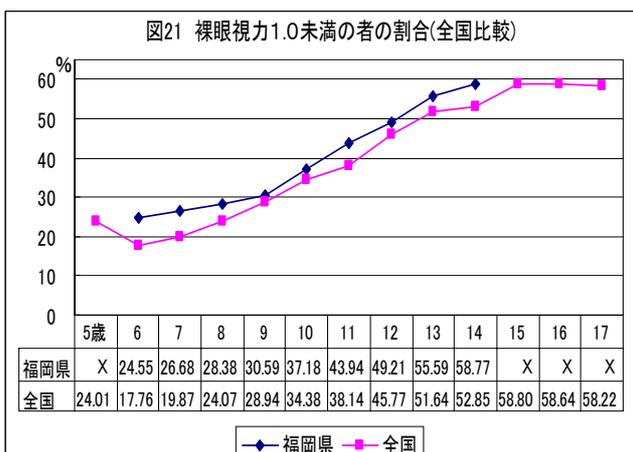
また、裸眼視力0.3未満の者の割合は、図20のように、年齢が高くなるにつれて上昇し、13歳で最も高い28.91%となり、14歳で低下している。



〈全国との比較〉

裸眼視力1.0未満の者の割合を比較可能な6歳から14歳で全国と比較してみると、図21のように、全年齢で全国を上回っている。

また、裸眼視力0.3未満の者の割合を比較可能な6歳から14歳で全国と比較してみると図22のように、7歳及び9歳を除く年齢で全国を上回っている。

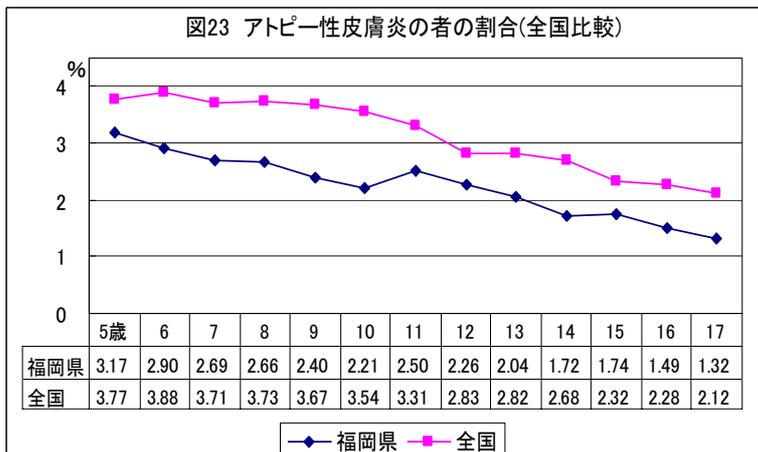


(3)アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の者の割合をみると、図23のように、5歳から10歳まで低下し、11歳でいったん上昇するが、12歳からまた低下している。

〈全国との比較〉

アトピー性皮膚炎の者の割合を全国と比較してみると、図23のように、全年齢で全国を下回っている。



(4)ぜん息

ぜん息の者の割合をみると、図24のように、5歳から12歳までは上昇傾向にあるが、13歳からは低下傾向にある。

〈全国との比較〉

ぜん息の者の割合を全国と比較してみると、図24のように、13歳を除く年齢で全国を下回っている。

